

日時：2025年12月21日（日）14:00～16:30
場所：早稲田大学戸山キャンパス33号館6階 第12会議室

日本パーソナリティ心理学会第165回常任理事会議事録

出席：尾見康博理事長、松田英子副理事長、小塩真司、森 津太子、田中麻未、外山美樹、武田美亜、川本哲也、中村 真

報告事項

I. 理事長挨拶

II. 各種委員会等からの報告

1. 機関誌編集委員会（小塩委員長）

(1) 機関誌掲載情報

第34巻2号 2025年11月刊行（2025年8月末までに採択された論文）

原著7編、展望1編、ショート10編うち事前登録研究1編

| | | |
|------------------|--|--------|
| ショート | トラウマ体験を有する成人女性におけるPTSD症状とQOLの関連性の検討—自己客体化の自律性の欠如に着目して— | 松岡 優菜 |
| ショート | 高校生における社会的達成目標と学校適応との関連—短期継続的検討— | 海沼 亮 |
| ショート | メンタライジングと曖昧さへの態度が社会適応に及ぼす影響 | 榎木 宏之 |
| ショート | マインドフルネス、胃腸症状に対する非機能的認知、嘔吐に関する回避行動の関連 | 米田 健一郎 |
| ショート | 終末期における安楽死の選択に関する要因—自殺の対人関係理論の観点から | 井奥 智大 |
| 原著 | 大学生用日本語版Interest Development Scale (IDS) の作成の試み | 本田 真大 |
| 原著 | 日本語版ICD-11 Personality Disorder Severity尺度(PDS-ICD-11-J) の開発 | 柴田 康順 |
| ショート | リスクテイキング行動に対する心理的特権意識とセルフコントロールの交互作用 | 濱谷 奏平 |
| 原著 | 心理支援における感染防止対策とクライエントの体験との関連—新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大下の調査から— | 福井 晴那 |
| ショート | 考え方の義務感尺度の測定不变性の検討 | 向井 秀文 |
| 原著 | 自己愛傾向と自尊感情の変動性との関連—誇大型・過敏型自己愛および出来事経験に着目して— | 白井 真理子 |
| 展望 | 個人差研究における個人間関係の解釈の誤り—測定系列の混同に対する警鐘— | 三枝 高大 |
| 原著 | 学級の学業的・社会的目標構造と学業的援助要請の相互影響過程—交差遅延パネルモデルを用いた短期継続的検討 | 川本 心羽 |
| 原著 | 感情の不安定性が援助要請に及ぼす影響 | 本間 真凜 |
| 追試研究 | 追試研究：過剰な援助者に対する第三者の印象低下—成人サンプルによる検討 | 小野島 昂洋 |
| ショート | Associations of metacognition in art appreciation with creative thinking | 澤田 和輝 |
| 原著 | 中高生のサイコバシー及び自己愛が道徳不活性化を介して攻撃行動に与える影響 | 渡邊 健蔵 |
| 事前登録研究 (ショート) | 事前登録研究：日本におけるパーソナリティ特性と価値観の関連—Big FiveパーソナリティとSchwartzの価値観理論を用いた検討 | 吉野 伸哉 |
| ショート | 「個」-「関係」葛藤及びASD傾向と対人恐怖心性との関連について | 近藤 啓太 |

第34巻3号 2026年3月発行予定（2025年12月末までに採択された論文）

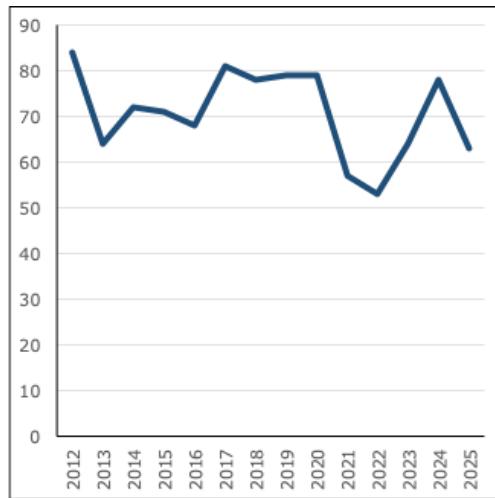
原著3編、ショート4編

| | | |
|------|---|-------|
| ショート | 非緩和共同性と過剰適応の弁別—Big Fiveとの関連性の観点から— | 萩原 千晶 |
| ショート | 日本語版Dark Future Scaleの開発とその信頼性・妥当性の検討 | 張 澤 |
| 原著 | 重要他者からの評価的・受容的フィードバックが自己不一致に及ぼす影響 | 能渡 紗菜 |
| 原著 | 日本の学校教員における職業満足度と職業イメージの規定因に関する包括的検討—社会調査の二次分析を通して— | 赤松 大輔 |
| 原著 | 選択的独り理由尺度の開発と信頼性と妥当性の検討 | 塙見 友康 |
| ショート | 日本語版完全主義・卓越主義尺度 (SCOPE) の開発と妥当性の検証 | 篠原 月名 |
| ショート | オンライン創作者と非創作者におけるBig Fiveパーソナリティ特性の比較 | 有海 春輝 |

(2)編集状況

2025年12月14日現在の投稿状況は、以下の図表の通りである旨の報告があった。

| 年月 | 採択 | 審査中 | 修正中 | 不採択 | 取り下げ | 投稿時不採択 | 投稿数 |
|------|----|-----|-----|-----|------|--------|-----|
| 2024 | | | | | | | |
| 1 | 2 | | | 0 | 0 | 0 | 6 |
| 2 | 5 | | | 2 | 1 | 0 | 3 |
| 3 | 1 | | | 3 | 0 | 0 | 9 |
| 4 | 2 | | | 4 | 0 | 0 | 6 |
| 5 | 3 | | | 3 | 0 | 0 | 7 |
| 6 | 1 | | | 2 | 0 | 0 | 12 |
| 7 | 3 | | | 3 | 0 | 0 | 3 |
| 8 | 4 | | | 3 | 0 | 0 | 4 |
| 9 | 2 | | | 1 | 0 | 0 | 4 |
| 10 | 8 | | | 1 | 1 | 0 | 7 |
| 11 | 2 | | | 1 | 0 | 0 | 6 |
| 12 | 1 | | | 2 | 0 | 0 | 11 |
| 計 | 34 | 0 | 0 | 25 | 2 | 0 | 78 |
| 年月 | 採択 | 審査中 | 修正中 | 不採択 | 取り下げ | 投稿時不採択 | 投稿数 |
| 2025 | | | | | | | |
| 1 | 3 | | | 2 | 1 | 0 | 5 |
| 2 | 7 | | | 2 | 0 | 0 | 7 |
| 3 | 1 | | | 5 | 2 | 0 | 9 |
| 4 | 4 | | | 3 | 0 | 0 | 7 |
| 5 | 4 | | | 4 | 0 | 0 | 8 |
| 6 | 4 | | | 1 | 1 | 0 | 7 |
| 7 | 5 | | | 2 | 0 | 0 | 8 |
| 8 | 6 | | | 6 | 0 | 0 | 1 |
| 9 | 1 | | | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 10 | 3 | | | 3 | 1 | 0 | 5 |
| 11 | 1 | | | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 12 | 2 | | | | | 0 | 1 |
| 計 | 41 | 0 | 0 | 30 | 6 | 0 | 63 |



(3)その他

小塩委員長より、論文執筆および査読プロセスにおけるAI利用のガイドラインあるいは留意事項・規程等の作成について検討を開始したいとの意向が示され、その方向で進めることを申し合わせた。

2. 経常的研究交流委員会（森委員長）

(1) 第34回大会の企画について

以下の通り、予定通り開催を終えた旨の報告があった。

・招待講演（オンデマンド配信）

“Putting Regional Personality on the Map”

＜講演者＞Friedrich M. Götz (Department of Psychology, University of British Columbia)

＜司会者＞吉野 伸哉（公益財団法人医療科学研究所）

・企画シンポジウム

『人が他人を助けるとき 一援助行動研究の新たな視座一』

＜話題提供者＞内山 有美（鳴門教育大学）、登張 真稲（文教大学）、下司 忠大（立正大学）

＜指定討論者＞小田 亮（名古屋工業大学）

＜司会者＞臼倉 瞳（東北学院大学）

・MPP企画

『工夫やコツを教えてください！一大学教員・研究者のゆとりをつくるには？一』

(2)大会外企画について

以下の通り、実施計画（予定）について報告があった。

「生成AI時代のパーソナリティ心理学ー研究・教育・学会活動への影響と課題ー」

<話題提供>

1. 研究への実践的活用：佐々木 研一 先生（株式会社ココノビ）
2. 研究活動・論文執筆支援：松木 祐馬 先生（中部大学）
3. 学生教育：浦田 悠 先生（大阪大学）
4. 学会誌編集：小塩 真司 先生（早稲田大学）

<日時>3/15（日） 13時～15時（Zoomにて開催）※調整中

(3)Summer School of Personality Science 2026 (SSPS2026) への派遣について

2025年12月8日にメールニュース配信を行って募集を開始したが、12月21日時点での応募者がいないとの報告があった。これをふまえて、募集期間を2026年1月9日（金）まで延長すること、併せて、昨今の為替相場を鑑みて、本学会から派遣者への補助金を100,000円に増額することを決定した。また、以上の決定事項をメールニュースにて周知することを申し合せた。

(4)その他

『パーソナリティ心理学事典』（丸善出版）に掲載する「心理尺度リスト」の作成協力について、学会公式サイト内の「心理尺度の広場」にある情報と整理統合し、データベース化する方向で検討したいとの報告があった。

3. 広報委員会（川本委員長）

(1)定例の活動（2025/7/16から2025/12/19まで）

ウェブサイトの更新（4回）、メールニュースの配信（29回）、ML上での業務調整などの活動内容が報告された。

(2)ウェブサイトのリニューアルについて

業者より提示された3パターンのリニューアルとそれぞれの見積額について検討を行い、次回の常任理事会において業者から直接説明を受けたうえでリニューアル方法を決定することを申し合せた。また、リニューアルサイトの運用開始時期について意見交換を行った。

(3)今後の活動予定（継続を含む）

ウェブサイトの更新、メールニュースの配信（随時）、委員分担コンテンツの更新を行っていく旨の報告があった。

4. 褒賞関連事項（外山褒賞担当常任理事）

(1)学会賞受賞者への賞金振り込みについて

詫摩武俊賞（優秀論文賞）受賞者（第1著者）、奨励論文賞受賞者（第1著者）に副賞として賞金を振り込んだ旨の報告があった。併せて、表彰式を欠席した奨励論文賞受賞者（第1著者）に賞状を郵送したとの報告があった。

(2)第34回大会の優秀大会発表賞について

第二次審査の結果をふまえて審議を行い、以下の通り、受賞者を決定した。併せて、受賞者に受賞と次年度大会懇親会招待の連絡を行うとともに、メールニュースにて会員向けに

報告することを申し合せた。

＜優秀大会発表賞（一般）＞

- ・古村健太郎・相羽美幸・菅原大地・翠川晴彦・櫛引夏歩・白鳥裕貴・川上直秋・太刀川弘和「感情的孤独及び社会的孤独の変化——2年間の縦断的研究からの検討——」

＜優秀大会発表賞（院生）＞

- ・澤田奈々実・吉野伸哉・小塩真司「Big Five パーソナリティと徒歩で暮らせるまちづくりの関連—2020年から2023年までの大規模縦断データを用いた地域レベルでの検討—」

III. 日本心理学諸学会連合（尾見理事長）

心理学検定の受検者数が伸び悩んでいること、日心連としては同検定を大学院入試に活用してほしいとの意向があること、今後は裾野を広げて、高校生および心理学初学者向けの検定の導入を視野にアンケートを行う旨の報告があった。

審議事項

I. 「学術著作権協会」からの著作物使用料受領および権利委託の可否について（追認事項）（田中事務局長）

本件については、メール審議において、以下のとおり、基本的には日本心理学会の方針に倣う形で対応することが了承されており、これを追認した。

①著作物使用料受領について

→ 受領する

②著作権の管理委託について

1. 「パーソナリティ研究」「性格心理学研究」
2. 「日本パーソナリティ心理学会大会発表論文集」「日本性格心理学会大会発表論文集」については、「アナログ複写複製利用」および「デジタル複写複製利用」の管理のみ委託

ただし、「転載複製利用」および「A I利用」の管理については、現時点では委託を見送るものとする。

II. EAPPへの協力金額および担当窓口について（田中事務局長）

Personality Scienceへの年間寄付について、以下の覚書の内容を踏まえ、2点について審議を行った。

-
- ・年間の支払い額である50,000円は、理想的には約340ユーロに相当する金額とする
 - ・為替変動が大きい場合には、双方が書面により合意した上で、日本円の金額を調整し、ユーロ換算額ができる限り340ユーロに近づくようにすることができる
 - ・為替レートを毎年確認し、調整の要否および方法について連絡・協議を行う必要がある
-

審議の結果、急激な為替レートの変動がない限り、当面は、340 ユーロに相当する日本円を送金すること、本件に関する連絡窓口を事務局とすることを申し合わせた。

III. 財務関連事項（武田財務担当常任理事）

武田財務担当常任理事より、2026 年度予算案作成にあたり、基本的には前年度を踏襲することをベースに進めるが、各種委員会において 2025 年度から大きな変更希望があれば、1 月末を目処にお知らせいただきたい旨の提案があり、これを承認した。

IV. 会員の入退会に関する件（田中事務局長）

田中事務局長より、別紙資料に基づき、新規入会希望者 3 名が示され、審議の結果、このうち 2 名の入会を承認し、申請書の記載事項に不備がある 1 名については保留とすることを決定した。また、ML 審議にて承認済みの 6 名について入会を追認した。（今回は退会者は 0 名であった）。また、2023 年度以降の会費未納者 17 名の自動退会が承認された。併せて、宛先不明者について報告があった。

以上の承認を受けて、2025 年 12 月 15 日現在、会員総数は 915 名である（今回、新規に入会が承認された 2 名は含まれない）。内訳は、一般会員 820 名、院生会員 73 名、学生会員 6 名、名誉会員 11 名、賛助会員 5 名である。

V. 第 35 回大会について（小塩真司 第 35 回大会準備委員長）

小塩準備委員長より準備状況について報告があり、8 月 20 日（木）、21 日（金）に早稲田大学戸山キャンパスにおいて開催すること、3 月中に 1 号通信を発送し、4 月 7 日頃から参加・発表申込を開始するスケジュールや、準備委員会の組織体制、各種企画の予定について報告があった。また、YPP に参加する非会員を大会に誘導する方策について YPP 企画者の意見を伺いながら継続検討することを申し合わせた。

なお、発表資格のための入会申込締切日については、小塩準備委員長と田中事務局長との間で調整を行って決定する旨を確認した。

VI. その他

入会審査のあり方について意見交換を行い、継続検討することを申し合わせた。

VII. 次回常任理事会の日程について

実施方法：オンライン開催

日時：3 月 30 日（月）14:00～

以上